

若さでがんばってます

249

今回は黒崎の
片座 俊也さん (19歳)
を紹介します。

消防はあこがれだった

— 今までは。
久慈高校を卒業後、久慈広域消防に採用となり、六か月間県消防学校で勉強、昨年十月から久慈消防署普代分署に勤務しています。

— 仕事の内容は。
勤めてから七か月になります。日誌を書いたり、文書処理、定時警戒などをしていきます。

— 職場で心掛けていることは。
体調管理と、常に即応態勢でいることです。

— 今の仕事についての理由は。
消防が大好きで、ずっとあこがれていたからです。

— 仕事が休みの日は何をしていますか。



— 家で休んでいることが多いです。
— 今、してみたいことは。
登山ですね。誰か一緒に行きましよう。

— 趣味、特技は。
ヨサコイソーランかな？ 四月に久慈消防署タンシングチームとしてアンバーホールで踊りました。

— 好きな言葉(信条)は。
平時は紳士たれ 有事は武士たれ

— 理想の女性像と結婚は。
一緒にいて安心できる人がいいですね。結婚はまだまだです。

— 将来のあなたは。
多くの知識、技術を身に付けて「どんな職場でも任せろ！」と言えるような、すごい消防士になりたいです。

— これからの村に期待するものは何ですか。
災害の無い、村民が安心して暮らせる村であってほしいです。

— 最後にあなたのPRを。
老けて見えますが、まだ未成年です。よろしくお願いします。次回ほどなたを紹介してくださいませ。

白井の山崎マリカさんです。

「普代の植物散歩」⑤

イチイ (二) (イチイ科)

大森 竹之助さん (七二)

久慈市在住

オンコの語源について、青森県五戸町や青森県下田町では、アイヌ語説をとり、広辞苑も「オンコは東北地方でイチイ(櫟)のこと、アイヌ語から」と説明している。実はアイヌ語に由来する根拠がないことから、最近これを疑問視し、アイヌ語説は否定されてきている。

北海道ではオンコの呼称を「北海道特有のものである」と言い、東北地方でもオンコと言うが、東北部の山形県にいくと、アララギと言うようになる。山形県上市市の木はアララギ(和名イチイ)と改め、次のような説明がある。「上市市の生んだ歌人、斉藤茂吉に最もゆかりの深い木である。」

市内の各所には、この種と同属近縁のキヤラボクを、かなり多く見ることができ、老木には長い風雪に耐えてきた貫禄がにじみ出ており、名木の中の名木といえる。成長は極めて遅く、ほんの少しづつ無理なく、まろやかに年輪を重ねるさまは、人生の指針になりうる」以下略。

普代村に近いイチイの自生地は、葛巻町の神山高原であろうか、惜しくも良木は伐採されたけれども、厳しい風雪に耐え抜いたイチイの大木が見られる。普代村の山にも、おそらく鳥が種子を運んだのであろう、思いもよらない所にイチイの若木が目につく。

イチイは仮種皮を除いて播種し、実生から増やす方法と押し木による方法がある。実生からのものは大木となり、押し木からのものは厳生して大きくならない。イチイの材は、床柱などの建築材、神官の持つシヤク、家具、鉛筆、彫刻材として優れているが、もともと深山性の樹木なので成長が遅く、需要に追いつかないといわれている。

普代村でも、庭園木、垣根盆栽として広く愛され親しまれている。



村妙相寺 (写真: 大森さん提供)